

「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」⑥ (11:22)

■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に (適用としての警告 も含む) ユダヤ教の三本柱と 御子との比較	テーマ	1:1~3	
	天使たちに優る御子	1:4~2:18	警告① 2:1~4
	モーセに優る御子	3:1~6	
	第二の警告	3:7~4:13	警告②
第二区分： 適用(御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み)	アロンに優る御子 (レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子)注①	4:14~10:18	警告③ 5:11~6:20
	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10:19~39	警告④ 10:26~31
	旧約の信仰者たちの生き方を 手本とする	11:1~40	
	信仰を持ち続けることの勧め	12:1~29	警告⑤ 12:25~29
	まとめとしての勧め	13:1~25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

細目	内容	箇所
信仰の忍耐	信仰の特徴	1節
	このような生き方が可能であることを実証した人々がいる	2
	目に見えないものを確信する事例=天地創造	3
族長時代以前	アベル	4
	エノク	5~6
	ノア	7
族長たち	アブラハム	8~19
	イサク	20
	ヤコブ	21
	ヨセフ	22
荒野の旅	モーセの両親	23
	モーセ	24~28
	イスラエル民族の人々	29~30
	ラハブ	31
試練の中で	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち)	32~34
	信仰は死を乗り越える	35~38
信仰の勝利		39~40

■ 前回の内容 「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」⑤ (11:21)

信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました (ヘブル 11:21)

1. エフライムとマナセへの祝福 (創 48:1~20)

(1) 1~7節 場面

① 5節 ヨセフの二人の子をヤコブの養子とする。

- 「エフライムとマナセ」を子とする、「ルベンとシメオン」と同じように
 - ルベンとシメオンは、ヤコブの第1子と第2子。その同じ位置にエフライムとマナセが立つ。
 - ヨセフの二人の子のうち長子はマナセ。しかし、ここで立場は逆転して、エフライムがヤコブの第1子になる。

(2) 8~14節 祝福の準備

- ① 12節 ヨセフは、父ヤコブへの従順を表す
- ② 13節 ヨセフは自分の右手にエフライム、自分の左手に長子マナセを取って、対面している父の前に近寄らせる。父がそのまま手を伸ばせば、父の右手は長子マナセに、父の左手はエフライムの上に置かれる。
- ③ 14節 しかし、イスラエルは手を交差して伸ばし、右手をエフライムの頭の上に、左手をマナセの頭の上に置いた。

(3) 15~16節 祝福の内容

- ① 15節 「ヨセフを祝福した」 二人の子を祝福するということは、その父親であるヨセフを祝福すること。
- ② 15節 「私の先祖アブラハムとイサクが御前に歩んだ神、きょうのこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神」
 - まず、アブラハム契約に焦点をあてる。そして、ヤコブは、幾多の逆境があったが、自分の人生全体が神の支配の中にあったことを認めている
- ③ 16節 「すべてのわざわいから私を贖われた御使い」
 - 次にヤコブは、第二位格の神、主の使いに焦点をあてる。主の使いと「贖い」とを関係させて表現する聖書での最初の箇所
- ④ 16節 「この子どもたちを祝福してください。私の名が彼らのうちとなえ続けられますように。先祖アブラハムとイサクの名とともに」
 - 私の名が彼らのうちとなえられる=二人の子がヤコブの養子となる
 - 先祖アブラハムとイサクの名とともに=アブラハム・イサクそしてヤコブの子孫であるイスラエル民族を構成する部族となる (エフライム族とマナセ族)
 - 6節 ヨセフがあとから生む子たちは、エフライム族かマナセ族に帰属する。「ヨセフ族」はつぐらなない。ヨセフの妻はエジプト人 (41:50)。長子の権利は、ヨセフ本人ではなく、エフライムに。しかし、ヨセフから出た二人の子がそれぞれ部族となって、約束の地を受け継ぐので、他の兄弟よりも2倍の相続となる。まさに、ヨセフは祝福を受けた (15節)。
- ⑤ 16節 「また、彼らが地のまなかで、豊かにふえますように」

- (4) 17~18節 ヨセフの反応
 (5) 19節 ヤコブの応答
 4節の約束は、特にエフライム族において成就するようになる
 (6) 20節 ヘブル 11:21 が指す、ヤコブの信仰による祝福のことば

① 原文を直訳すると・・・

彼は、彼らを祝福した、その日に。

アマル【言った】、あなたの中にあつて、祝福するだろう、イスラエルは。

アマル【言った】、あなたをしてくださるように、神が、エフライムのように、マナセのように

- ② 不思議な祝福のことばである。アマル【言った】に続いて、2つ語られる。
- 一つ目、イスラエル=ヤコブが祝福するのは将来のこと「祝福するだろう」。「あなた A の中にあつて」あるいは「あなた A によって」
 - 二つ目、祝福のことば、「神が『あなた B』をエフライムのようにマナセのように繁栄させてくださるように」。ここで祝福を受けている『あなた B』が誰かは特定されていない。
- ③ 一つ目の「祝福するだろう」は、未来形。二つ目の祝福の内容は、エフライムとマナセの繁栄が実現していることが前提。よって、これは将来のことである。
- ④ あなた A とあなた B の解釈（清水私見）
- A=B の場合 ヤコブは、祝福する相手、イスラエルの子孫である『あなた』を祝福する。その部族が受け取った約束の地の領域に立って、「あなたの中にあつて」と言う。
 - A と B は同一人物ではない場合 「あなた A」は、48:16 の「御使い」、すなわち第二位格の神を指す。
 - 15節 神 16節 御使い ⇔ 20節 御使い 神
 - 主の使いは第二位格の神、20節での「あなた A」は、メシア王国における王である
 - ヤコブは、復活してメシア王国で約束の地に立っている日を預言
 - いずれにせよ、ヤコブの目はほとんど見えず、力をふりしぼって床にすわるような（2節、10節）状況の中で、彼は復活して約束の地に立つ日を望み見ていた。

■ 本日の内容 「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」⑥（11:22）

信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました（ヘブル 11:22）

前回の内容、ヤコブに関する創世記の記事をたどって、ヨセフの生い立ちを見ましょう。

1. ヤコブはパダン・アラム（アラムの平野）の地のハランへ行く（創 28:5~22）
 - (1) 5節 母リベカの実家。このときの当主は、リベカの兄ラバン。ヤコブは77歳
 - (2) 10~22節 アブラハム契約を継承したことの再確認。ベテル「神の家」

2. ハランでのヤコブ (創 29:1~30:43)

- (1) 1~14節 到着
- (2) 15~30節 7年間働いて、結婚(ヤコブ、84歳)。さらに7年間働くことになる
- (3) 29章31節~30章24節 ヤコブの息子たち

① 11番目はヨセフ。妻ラケルが自ら生んだ最初の子。

1. アサフ「取り去る」
2. ヤサフ「加える」→ヨセフ

② 創世記の他の箇所と合わせると、ヨセフ誕生のとき、ヤコブ90歳

- (4) 25~36節 ラバンとの取り決め
- (5) 37~43節 ヤコブが富む

3. ハランを出る (創 31:1~55)

- (1) 1~21節 出発。ハランに来てから20年、ヤコブは97歳、ヨセフは7歳
- (2) 22~42節 ラバンが追跡する
- (3) 43~55節 ガルエデでの契約

4. マハナイン、ヤボクの渡し、エサウとの再会 (創 32:1~33:17)

5. シェケム (創 33:18~34:31)

- (1) シェケム周辺に来る (33:18~20)
- (2) ディナ(ヤコブとレアの娘)事件 (34:1~31)

6. ベテルに帰ってくる (創 35:1~15)

- (1) ベテルまでの旅路 (35:1~8)
- (2) 神の現われ (35:9~15)

ヨセフにとって弟の誕生と母の死。
母亡き後、ヨセフを世話したのはビルハかも

7. **ベニヤミンの誕生とラケルの死** (創 35:16~20)

8. ミグドル・エデルでの出来事 (創 35:21~22a)

- (1) ルベンがビルハにした行動は、自分が一族のリーダーであることを主張したのかもしれない(参考 IIサム3:7、12:8、16:20~22)
- (2) イスラエルは、このことを聞いた。→ この時点では、それについて何も言わなかった。しかし、後に49:3~4で取り上げる。ルベンのした事は、長子の権利を失うことになる。

9. ヤコブの12人の息子たち (創 35:22b~26)

10. イサクの死 (創 35:27~29)

11. エサウからエドム人が出る (創 36:1~37:1)

- (1) 36:1~8 エサウの歴史 トルドット
- (2) 36:9~37:1 エドム人の先祖としてのエサウの歴史 トルドット

① 36:43c~37:1 「エドム人の先祖はエサウである。ヤコブは、父が一時滞在していた地、カナンに地に住んでいた」

- エサウが住んだのはエドムの地、ヤコブが住んだのはカナンの地。

② この箇所からエサウは創世記の記事から消えていく。

創世記37:2「これは、ヤコブの歴史 トルドットである」=ヤコブのあとは、どうなったか → 「ヨセフは・・・」とつながって、50:26までヨセフを中心に記録されます。創世記を構成する11のトルドットの11番目です。では、ヨセフの生涯を見ていきましょう。

1. ヨセフが奴隷に売られる (創 37 : 2~36)
 - (1) 2~4 節 そでつきの長服 (長子の権利を示唆する)。ヨセフ 17 歳
 - (2) 5~11 節 ヨセフの見た二つの夢
 - (3) 12~24 節 穴に落とされる
 - (4) 25~36 節 奴隷に売られる。ミデヤン人の商人→イシュマエル人 (エジプトへ)
2. ユダと息子の嫁タマル (創 38 : 1~30)
 - (1) 1 節 ヨセフが奴隷に売られた頃、ユダは、「下って行き」シェフェラーの地域に移動した。
 - (2) 1~11 節 タマルとユダの息子たち 12~26 節 タマルとユダ 27~30 節 双子が生まれる
 - (3) 時期的には、次の 39 章から 45 章までの期間と並行する。ヨセフが奴隷に売られて、その後エジプトの宰相になって活動する時期である。双子が生まれるのは、ヨセフ 39 歳の頃と推定される。

ここからは、ヨセフが、17 歳から 30 歳までのことです (3, ~ 5.)

3. ポティファルの家にて (創 39 : 1~18)
 - (1) 1~6 節 ヨセフへの祝福
 - ① ヨセフの主人は、パロの廷臣で侍従長のポティファルというエジプト人
 - 紀元前 1898 年頃と推定される。その時期のパロは、セソトゥリス (1897 ~1879b.c.)
 - ポティファルは、廷臣であり、侍従長=王の親衛隊の長であった。
 - ポティファルの家には、王の囚人を監禁する監獄があった (39 : 20、40 : 3)。王の監獄がポティファルの家にあったということは、王に危害を及ぼす恐れありとの疑いのある人物を逮捕し、尋問し、そして処刑する権限が、彼にあったということ。
 - ② 主がヨセフとともにおられたので、ヨセフは幸運な人となった
 - ③ ポティファルは、ヨセフのすることがすべて成功するのを見た
 - ヨセフが成功した理由は、「主が彼とともにおられた」「主が彼のすることすべてを成功させてくださった」
 - ④ ポティファルは、ヨセフを信頼し、彼に家政を任せた
 - ⑤ 主は、「ヨセフのゆえに」このエジプト人の家を祝福された。
 - アブラハム契約の条項 (創 12 : 3) →ユダヤ人を祝福する異邦人は、主から祝福を受ける
 - ⑥ 「自分の食べる食物以外には、何も気を使わなかった」(6 節)。万一毒をもらえることを警戒していて、そこまではヨセフを信頼していなかった、ということではない。当時のエジプト人の習慣を述べているだけ。当時のエジプト人は、外国人といっしょに食事をするとか、自分たちが食べる物と同じ物を外国人に提供するという事はしなかった (43 : 32)
 - (2) 7~18 節 ヨセフとポティファルの妻
 - ① 7~10 節 ポティファルの妻は執拗に誘惑し続ける。ヨセフは拒み続ける
 - ② 11~18 節 ポティファルの妻 : 欲望が満たされないと、一転、憎しみへ

- ヨセフの対応は正しい。性的誘惑に対しては「逃げる」。Ⅱテモ 2:22「若い時の情欲を避けなさい」ギフオイゴウ「逃げなさい」

4. ヨセフ 牢獄の中で (創 39:19~40:23)

(1) 19~23 節 ヨセフへの祝福

- ① 19 節 ポティファルは「怒りに燃えた」とあるが、ヨセフを処刑しなかった。妻の言い分を完全には信用していなかったのかもしれない。
- ② 20 節 ポティファルは、ヨセフを監獄に入れた。監獄につながれてすぐのころの様子は、創世記には記事はないが、詩 105:18~19「彼らは足かせで、ヨセフの足を悩まし、ヨセフは鉄のかせの中に入った。彼のことがそのとおりになる時まで、主のことは彼をためした」
 - ヨセフがこの試練を乗り越えることができたのは、ヨセフの側から言うと、かつて彼が見た二つの夢を通して与えられた預言について主を信頼し、その通りに成就すると信じたからである。
 - しかし、同時に、神の側から言うと、「主はヨセフとともにおられ、彼に恵みを施され、監獄の長の心にかなうようにされた」(創 39:21)。人の側の信仰と、神の側の恵みは、常に同時並行で事をなす。
- ③ 22~23 節 監獄の長は、すべての囚人をヨセフの手にゆだねた。監獄の長は、任せたことには何の干渉もしなかった→完全に信頼していた。
- ④ 監獄長だけでなく、ポティファルもヨセフに対する信頼を回復していく。→ 40:4 侍従長はヨセフを彼らの付き人にしたので、彼はその世話をした。

(2) 40 章 二つの夢

5. ヨセフ パロの前で (創 41 章)

- (1) 1~8 節 パロの見た二つの夢
- (2) 9~13 節 献酌官長の報告
- (3) 14~24 節 パロがヨセフに夢の内容を語る
- (4) 25~36 節 ヨセフが夢を解き明かし、対策についての助言をする
- (5) 37~46a 節 ヨセフがエジプトで王に次ぐ地位に上る。ヨセフ 30 歳。

ここからは、ヨセフが、30歳から57歳までのことです (6.~15.)

6. ヨセフの活動 (創 41 章 46b~57 節)

7. ヨセフと兄弟たち (創 42:1~45:28)

- (1) 42 章 兄弟たち、エジプトに来る【第 1 回目】
- (2) 43~45 章 兄弟たち、エジプトに来る【第 2 回目】
 - ① 45:6 飢饉の 2 年目。まだ、5 年は続く。ヨセフ 39 歳

8. イスラエル、エジプトへ (創 46:1~47:12)

- (1) 1~6 節 神の認可
- (2) 8~27 節 ヤコブの家族
- (3) 28~34 節 エジプトに到着
- (4) 47 章 1~10 節 パロにヨセフから報告、パロの前に立つ 5 人の兄弟、次いで父ヤコブ (9 節、130 歳)。ヨセフ 40 歳
- (5) 11~12 節 ラメセスに住む。そこは、ゴシェンの地 (47:27) の一部で、ゴシェ

ン地方の中でも良い地。パロの命令。12節は、ヨセフによる全家族の扶養。

9. 飢饉の中での食料供給と 家畜・農地・種の保全＝農民の保護 政策（創 47:13～26）
 - (1) 13～14節 第一段階
 - (2) 15～17節 第二段階
 - (3) 18～22節 第三段階
 - (4) 23～26節 第四段階
10. ヤコブ、エジプトにて（創 47:27～31）
11. エフライムとマナセへの祝福（創 48:1～20）
12. ヤコブ、ヨセフへの預言（創 48:21～22）
 - (1) 21節 あなたがた（イスラエルの家族→イスラエル民族）は約束の地へ戻る
 - (2) 22節 シェケムは、ヨセフに与える→ヨシュア 24:32 マナセ族の割り当て地の中に位置した。
13. ヤコブによる 12 人の息子たちに関する預言（創 49:1～28） ヨセフ（22～26節）
 - (1) 22節
 - ① 実を結ぶ若枝：実を結ぶ^へパラウ、「エフライム（ふたつの実）」と同じ語源
 - ② 泉のほとりの、実を結ぶ若枝：雨や露だけに依存せず、自分の水源を持つ
 - ③ その枝は垣を越える：民数記 1 章＝荒野の旅 2 年目では 72,700<ユダ族 74,600、26 章＝荒野の旅 40 年目では 85,200>ユダ族 76,500
 - (2) 23節
 - ① 弓を射る者は 3 つ、彼を激しく攻めた、彼を射た、悩ました。
 - ② ヨセフを攻撃したのは、兄弟たち、ポティファルの妻、ポティファル
 - (3) 24節 ヨセフはその 3 つの攻撃から生き延びた。4 つのフレーズ
 - ① 彼の弓はたるむことなく・・・直訳すると「彼の弓は、しっかりとした形を保った」、弓が強靱な反発力を保持している状態を指す。ヨセフが靈的にも倫理的にも、2 つの面でしっかりとした強さをもっていたことを示す。
 - 同時に、神がヨセフを守り、敵が放つ矢がヨセフの致命傷にならないように、そして敵の攻撃が失敗するようにしてくださった。
 - ② 彼の腕はすばやい「彼の両腕の両手は（その弓を瞬時に引き絞ることができるように）強くされている」、ヨセフの信仰は監獄において試され、その真価が証明されて、より強くなった。その結果、彼はエジプトで王に次ぐ地位に上った。
 - ③ ヤコブの全能者（＝神）の両手による・・・ヨセフの力は全能なる神の力によって与えられたものである
 - ④ そこから^へシャム、（来る）、牧者が、すなわちイスラエルの岩が・・・③の神が「イスラエルの岩＝メシア」を送ってくださる。そのお方は、牧者である。→メシアは良い羊飼いである（ゼカリヤ 11 章とヨハネ 10 章へとつながる）
 - (4) 25節 ヨセフへの将来の祝福について
 - ① 25節 a 祝福の源は神である。
 - ② 25節 b 祝福は 3 つ、2 つは経済的繁栄と 3 番目は子孫が多くなること
 - 上よりの天の祝福：夏の乾期に、露が降りて、作物が潤うこと
 - 下に横たわる大いなる水の祝福：乾燥気候の地域では重要な水源である泉や地下水脈が豊かであること

- 乳房と胎の祝福：エフライム族とマナセ族を合わせると最大部族

(5) 26節 ヨセフは、ヤコブの祝福を受ける

- ① あなたの父 (=ヤコブ) の祝福は、私の親たち (アブラハム、イサク) の祝福にまさる・・・アブラハムもイサクもひとりの息子だけに「族長の祝福」を与えたが、ヤコブは12人の息子たちに与えることができた。この前には、ヨセフの二人の息子たちにも与えた。
- ② 永遠の丘【複数形】のきわみにまで及ぶ・・・申33:15では「昔の山々からの最上のもの、太古の丘からの賜物」。ヨセフが受け取る祝福がきわめて豊かなものであることの表現。
- ③ これらがヨセフのかしらの上にある
- ④ その兄弟たちから選び出された者の頭上にあるように。・・・「選び出された者」は、ヘブル語では「プリンス」の意味も。「頭上」は正確には「頭の冠の上」。

14. ヤコブの死と葬り (創49:29~50:14) ヤコブ 147歳、ヨセフ 57歳

15. 兄弟たちの恐れとヨセフによる保障 (創50:15~21)

ヨセフは、110歳で死にます。

16. ヨセフの死 (創50:22~26)

- (1) 22節 ヨセフ 110歳。ヤコブが死んだ年から数えて54年目。
- (2) 23節 ヨセフは、エフライムの三代の子孫を見た。マナセの子マキルの子らも生まれて、ヨセフのひざに抱かれた。
- (3) 24~25節 ヨセフの遺言
 - ① 24節 約束の地への将来の帰還を信じるヨセフの信仰の表明
 - ヨセフ自身は、その生涯において、一度も神からの直接の語りかけを受けなかった。アブラハム、イサク、ヤコブとはこの点では異なる。
 - しかし、ヨセフは、アブラハム、イサク、ヤコブから受け継いだ神のこぼを信じた。アブラハム契約の約束を信じた。
 - ② 25節 私の遺体[□]エトセム 第一義的には骨、そこから体や遺体も指す。自分の遺骨をエジプトから約束の地へ携えていくように命じた。
 - ③ ヘブル 11:22 「信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました」→このヨセフの指図は、それ自体、信仰の行いであった。
- (4) 26節 ヨセフの死
 - ① ミイラにした [□]チャナト 語源は「スパイス香辛料をつける」、薬品・香油などで死体に防腐処理をすること
 - ② 棺にいた [□]アロン 箱、棺。この棺は、ミイラ (干からびた状態になったもの) 用の木製の箱。石棺ではない。
 - ③ こうして、ヨセフの遺骨は損なわれることなく完全に保存された。
 - ④ のちに約束の地へと運びだされ、シェケムの地に葬られた (出13:19、ヨシュア24:32)